

会員にメリット感じてもらえる運営を 大建協の奥村会長、森本副会長が会見

大阪建設業協会(大建協)は2月25日、大阪市内で2010年度の定時総会を開いた。再任された奥村太加典会長は総会後の記者会見で、2期目に当たり「あらゆる変化に柔軟に対応し、会員各社にメリットを感じてもらえる運営に心掛けた」と抱負を述べた。

10年度の活動方針では「会員各社のニーズを的確につかむため、直接訪問して大建協活動を説明するとともに、あらゆる意見を聞きたい」とし、具体的には



奥村会長(写真中央)、森本副会長(左)

「民も含め受発注者間の片務性解消に努める」「入札契約制度については技術と経営に優れた企業が勝ち残る制度としていくための声をしっかりと上げていく」と述べた。

森本晴夫副会長は、中小・中堅企業を代表して地域

の建設業が抱える問題を挙げ、「現状は建設業の夢と希望、誇りが打ち砕かれている。『夢と誇り』が持てる建設業とするために、経営面、事業承継、安全管理の在り方の研究などに取り組みたい」との考えを示した(11面に関連記事)。